恐怖の八幡物凄き製鐵所

混亂の巷と化す

此の上は當局白仁長官の誠意に俟たんのみ

八幡は遂に爆發した、過般來の沈靜は單に當局の高壓によつて一時の安を貪つて居たに過ぎない、職工衷心の餘憤は尙焔々としてその安全瓣を求めねば止まなかつた。不安は漸次に濃厚になる恐怖の霧は漸く八幡全市に立て罩めて來た、此の危險なる情態を憂慮したる勞友會の幹部は談笑平和の間に八幡勞働爭議の根本的解決を計らんと當局との折衝を重ねて居た、本社も亦此の情況を以て國家の不祥事となし勞友會の懇請により本社の加藤勘十を特派し穩健なる方法の下に相互の諒解に勉めて居た、然るに如何にせん當局の誠意充分ならず、加藤特派員の苦心も亦水泡に歸し、特派員が社用を以て筑豐地方に旅行中突如として勃發の不幸を見るに至つたのは本社の頗る遺憾とする處である。

されど事茲に至つては既に天意のみ微少なる一私人のよくす可き所にあらず、唯此の上は一に當局乃至白仁長官の誠意に俟つの外はない、要は誠意である、時代を解し事件の性質を眞解せる『誠意』のみがよく此の未曾有なる爭議を解決し得るものである

の大罷業は意外に物凄き形勢を示せり白仁長官の誠意なき態度は極度迄職工側の憤激を買ひ今後如何なる犧牲を出すも相互救助を擧げ二萬の職工例令

餓死す るも最後の一人に至る迄極力奮鬪飽く迄も初志の貫徹に努めざるべからずとの意氣全く當るべからず五百の煙突空しく死立する塲の内外は凄じき怒罵喊聲に滿たされて不安の空氣漲り渡り各門に殺到する民衆と守衛との間に小衝突頻出豐山公園並に中央區權現山下の九軌發電所大廣場に集まれる二個の

集團は 何れも當局の不誠意を痛罵せる演說に氣勢を擧げ合して一團となるや友愛會九州支部長藤岡文六氏の捧持する會旗を先頭に萬餘の民衆八幡市内を練り歩きて大示威運動を行ひ爲めに市内の混亂名狀すべからず製鐵所當局者は餘りの出來事に狼狽爲す所を知らず小倉門司若松其他より

來援の 警官憲兵刻々に增加し來り嚴めしき劍光帽影製鐵所の周圍を嚴戒中である（八幡發）

勞資會を襲ひ

大格鬪

本部員逃走す

廿四日午後一時四千餘名の職工團

化し双方に多少の負傷者を出し結局勞資會側の逃走により一同萬歲を叫んで引上げたり

に決し[illegible]京中[illegible]七時半東京驛發の[illegible]任した

らざるは明[illegible]順序の如[illegible]多少の異[illegible]修正とは

各自熱心に自己の處信を發表し議論大沸騰を來したれば大津會長は一先づ休憩をなしたる後態度を決定する事となりたり時に二十五日午前零時なり二十五日午前一時四十[illegible]

發行兼編輯 向
發行所 八幡 八